

U.S. Indicators

米国 04年5月以来の高水準に上昇（17年9月 I S M製造業景気指数）

公表日：2017年10月2日（月）

～新規受注・生産が高い水準を維持するなか雇用に波及し上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

I S M製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
16/09	51.7	55.0	53.3	50.0	49.5	50.8	49.5	53.0	52.0	49.0
16/10	52.0	54.1	54.4	51.8	47.5	52.2	45.5	54.5	52.5	52.0
16/11	53.5	54.8	55.6	52.5	49.0	55.5	49.0	54.5	52.0	50.5
16/12	54.5	60.3	59.4	52.8	47.0	53.0	49.0	65.5	56.0	50.5
17/01	56.0	60.4	61.4	56.1	48.5	53.6	49.5	69.0	54.5	50.0
17/02	57.7	65.1	62.9	54.2	51.5	54.8	57.0	68.0	55.0	54.0
17/03	57.2	64.5	57.6	58.9	49.0	55.9	57.5	70.5	59.0	53.5
17/04	54.8	57.5	58.6	52.0	51.0	55.1	57.0	68.5	59.5	55.5
17/05	54.9	59.5	57.1	53.5	51.5	53.1	55.0	60.5	57.5	53.5
17/06	57.8	63.5	62.4	57.2	49.0	57.0	57.0	55.0	59.5	54.0
17/07	56.3	60.4	60.6	55.2	50.0	55.4	55.0	62.0	57.5	56.0
17/08	58.8	60.3	61.0	59.9	55.5	57.1	57.5	62.0	55.5	54.5
17/09	60.8	64.6	62.2	60.3	52.5	64.4	58.0	71.5	57.0	54.0

（出所）I S M : the Institute for Supply Management

製造業景気指数は60.8 と前月比2.0%ポイント 上昇

17年9月のI S M製造業景気指数（季節調整値）は、60.8と市場予想中央値の57.5への低下に反して前月比+2.0%ポイント上昇、04年5月の61.4以来約13年ぶりの水準となり、製造業部門の好調を示している（筆者予想59.1への上昇）。I S M製造業景気指数は、ドル高の影響を受けながらも、国内需要の堅調さ、原油価格の上昇による石油掘削リグの稼働数の増加（ボトムからの水準切り上げ）、世界的な需要の拡大等を背景に、米国製造業の拡大ペース加速を示している。

総合指数を構成する項目では、在庫が前月から低下したが、新規受注、生産、雇用、入荷遅延が上昇し、4項目すべてが60の台台となった。新規受注が内外需の堅調さを映じて高い水準を維持しており、製造業部門が良好な状態を当面維持することを示唆している。また、新規受注、生産が高い水準を維持するなかで雇用に波及し高水準に上昇した。

構成項目別の総合指数への寄与度をみると、在庫（前月比▲0.60%p）が押し下げ寄与となった一方で、入荷遅延（前月比+1.46%p）、新規受注（前月比+0.86%p）、生産（前月比+0.24%p）、雇用（前月比+0.08%p）が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比2.0%ポイント上昇した。

総合（全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）で拡大した業種は、繊維、一般機械、非鉄、輸送機器、プラスチック・ゴム、紙製品、木材製品、コンピュータ・電子機器、食品・飲料・タバコ、化学製品、加工金属、その他製造業、石油・石炭、アパレル、印刷・関連サポート活動、電気設備・部品、一次金属の17業種となった。前月の14業種から増加、多くの業種で拡大しており、製造業は広がりを持って拡大している。一方、縮小した業種数は、家具・同関連の1業種と前月の3業種から

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

減少した。

コンタクト先からの報告は、9月も前向きな内容が目立ったが、ハリケーンの影響を懸念する報告が増加した。

一般機械は依然売上が高水準だが、例年この時期は需要が弱くなり始めると報告された。また、コンピューター・電子機器はエネルギー部門で石油価格安定の兆しによって需要が強いままと指摘された。その他製造業は17年はとても良い年となっているうえ、18年も強い需要が続くと予想していると報告された。一方、輸送機器では労働力不足が現地の工場や、サプライチェーンの両方の操業能力に頻繁に影響を与えていると人手不足への懸念が示されたほか、木材製品では丸太価格が上昇し始めた一方で、木材価格が下落し始めており、最高の組み合わせではなかったとコスト増への警戒が報告された。

ハリケーン関連で、価格上昇を懸念する報告が多かった。化学製品ではハリケーンによってサプライチェーンや価格に問題が生じたと指摘されたほか、プラスチック・ゴムは需要が強いが、ハリケーンによる価格上昇を懸念していると報告された。紙製品では湾岸地域で多くの原材料製品が生産されているため、ヒューストンの出来事を注視しており、供給や価格の上昇を予想していると指摘された。また、食品・飲料・タバコではハリケーン「ハービー」「イルマ」が投入コストに大きな影響を与えるとみられる。サプライチェーンの混乱、輸送への懸念があると指摘、非鉄ではハリケーン「ハービー」「イルマ」の建設資材需要に影響している、売上が増加するが、原材料コストが大幅に上昇することへの懸念が示された。

製造業景気指数はドル高の影響等により緩やかな拡大を示す水準に低下する公算

今後、雇用・所得の拡大等を背景に個人消費を中心とした国内需要の拡大が続くほか、世界経済の拡大が続くとみられる一方で、ドル実効レートが米国景気への楽観的な見方や緩やかなペースでの利上げ継続、米国への資金還流等の影響を受け、製造業が好調だった時と比較して高い水準に止まると予想される。このような中で、ISM製造業景気指数は、9月にかけて勢いを強めた反動もあり、製造業の緩やかな拡大を示す水準に徐々に低下すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。